



平成29年2月9日

各 位

会社名 中央化学株式会社
 代表者名 代表取締役社長 社長執行役員 水野 和也
 (コード番号 7895)
 問合せ先 管理本部 経営企画部長 遠藤 勇一
 役職 氏名
 電 話 048-540-2820

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成28年5月10日に公表しました業績予想を下記の通り修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

(1) 平成29年3月期通期連結業績予想数値の修正 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	60,000	1,200	1,000	700	円 銭 34.74
今回修正 (B)	60,000	400	100	△ 200	△ 9.92
増減額 (B-A)	0	△ 800	△ 900	△ 900	△ 44.66
増減率	0.0%	△66.7%	△90.0%	—	—
(ご参考) 前期第4四半期実績 (平成28年3月期第4四半期)	59,397	800	602	603	29.97

(2) 平成29年3月期通期個別業績予想数値の修正 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	53,000	1,000	700	円 銭 34.74
今回修正 (B)	53,000	200	100	4.96
増減額 (B-A)	0	△ 800	△ 600	△ 39.70
増減率	0.0%	△80.0%	△85.7%	△85.7%
(ご参考) 前期第4四半期実績 (平成28年3月期第4四半期)	52,773	541	538	26.73

2. 修正の理由

1) 個別業績

食品包装容器市場と極めて関連性の深い食料品販売動向については、百貨店・食品スーパーの売上げが伸び悩む中、コンビニ業態の好調により緩やかな回復傾向にあります。

このような環境下、当社においては、単体個別におけるリサイクルPETを原料とする環境配慮型製品C-APG（製品名）やその他の高付加価値製品の開発・生産・販売促進を進めておりますが、一部生産の遅れと関係先との仕様確認を進めながらの納入開始で遅れが生じているため、これらの遅れをカバーすべく既存汎用品の拡販を強化しております。この結果、売上高は当初計画をほぼ達成する見通しです。

一方、収益面につきましては、既存汎用品の販売が堅調に推移しているものの、当初計画しておりました環境配慮型製品やその他の高付加価値製品の開発・生産の遅れによる開発・生産費用の増加により収益率が計画を下回る見込みで、この結果、経常利益は当初計画に対し8億円程度・当期純利益は当初計画に対し6億円程度下回る見通しで、前期に対しても当期における開発費負担や高付加価値製品への切替え遅れなどから、経常利益・当期純利益は前期比減益となる見通しです。

2) 連結業績

連結売上高は、個別業績における売上高と同様に、当初計画をほぼ達成する見通しです。

連結営業利益については、個別業績での営業利益が当初計画を8億円下回ることから、同額下回る見通しです。連結経常利益・連結当期純利益については、個別業績の未達に加え、連結子会社における営業外損益の計画比悪化約1億円などがあり、当初計画を9億円下回る見通しです。

なお、連結の営業利益・経常利益・当期純利益につきましても、個別業績同様、当期における開発費負担や高付加価値製品への切替え遅れなどから、連結経常利益・連結当期純利益は前期比減益となる見通しです。

(注) 上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後の為替相場の変動をはじめ、原材料価格・製品販売価格等の変動など様々な要因によって上記の予想とは異なる結果となる可能性があります。

以 上